

～「ながさきけん希望大使」(ご家族)から伝えたいこと～

(今回は奥様からお言葉をいただきました)

大使という大役の任期を頑張ろうと思ってます。

2017年頃より生活面に不信感が感じられ、2018年8月脳外科で画像をとり萎縮宣告され、そこからが家族で病院選びでした。最初に受診した病院では“うつ病”との診断でしたが、夜の睡眠が浅く、薬の処方をしてもらえるので、様子をみながら再度検査が出来る病院を探していました。K病院で検査をし、3カ月後前頭葉側頭型認知症と告げられました。

その時の頭が真っ白になった記憶は今でも鮮明に残ってます。それからは妹夫婦、両親、子供、親友とネット等で病気を調べました。県の認知症サポートセンターへ電話相談をしたのをきっかけに色々な人と出会い、経験者の話を聞くことができ、主人に関わる人には隠さないで話す事にして私もストレスが緩和できました。妹夫婦を始め、周りに助けられながら今を過ごせてます。

3週間ほど娘宅へ行ったところ、環境の変化で本人はストレスになり、手を洗う常同行動が自宅に居る時よりひどくなりました。他にも少しずつ目立ち、私も苛立ちを抑えることが難しくなりました。言葉もきつく言ったり何度か叩いてしまう事もあり、自分の冷たさも感じたりしました。毎日の生活リズムの大事さも感じました。

この私の行動を本人は笑っていて言葉にはしませんでしたが、診察の時に主治医の先生に“由佳の言葉がねえ”と話してましたので怖い、意地悪と思ったのかもです(笑)

まず違和感を感じたら、早めの診察！病気をオープンに！

希望大使になって本人に理解があるのか難しいですが、同じ病気の人や自分達も経験者の人のアドバイスで前向きになれたので、ありのままを伝えたらと思います。

ながさきけん希望大使
溝上文徳様

